

令和4年度 上田市指定管理者モニタリング評価調書

【施設概要】

施設名称	上田市母子寮					
指定管理者名	社会福祉法人 原峠保養園	料金制導入区分	使用料(直接収納)			
指定管理期間	令和3年4月1日 ~ 令和6年3月31日 (3年間)					
施設所管課	健康こども未来部	子育て・子育て支援課				
設置目的	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させてこれらの者を保護するとともに、これらの者の自立の促進のためにその生活を支援し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行う					
指定管理者が行う業務内容	1.入所者の保護、支援 2.入所者の自立支援 3.退所後の支援 4.寮内保育 5.児童、生徒の育成 6.就労支援 7.施設及び設備の維持管理					
管理業務 の状況	作業項目	作業内容	回数	実施日	実施状況	
	日常清掃	日常的な館内清掃	1日1回以上	毎日	職員が実施	
	定期点検	給排水、電気、ガス設備の点検	1日1回以上	毎日	職員が実施	
	消防設備点検	有資格者による法定点検	年2回	7月・1月	専門業者に委託	
	その他設備点検	受水槽の点検、清掃等	年1回	2月	専門業者に委託	
職員の 配置状況	役職等(職務内容)			計画	実績	
	施設長			1人	1人	
	母子支援員			6	6	
	少年指導員兼事務員			2	2	
	調理員			1人	1人	
	嘱託医			1人	1人	
施設の 利用状況	利用区分等	設定目標値	R4年度実績	達成率	R3年度実績	前年度比
	入所施設	※設定なし 人	延6,139人 人	%	延5,909人 人	103.9 %
		人	人	%	人	%
		人	人	%	人	%
		人	人	%	人	%
	開館日数	365 日	延べ利用者数 (R4)	6,139 人	一日あたり 利用者数	17 人
	(施設所管課による評価)					
生活困窮、DV等の理由により緊急的に福祉事務所の措置により入所した母子を保護し、生活基盤の安定に向けた就労支援や、親子関係の再構築など自立に向けた支援のほか、施設退所後の相談にも応じている。入所者の家庭環境が複雑・多様化している中で、支援内容も多岐にわたっているが、これまでの施設運営のノウハウや専門職の配置などにより支援体制が確保されている。						
自主事業 の状況	事業・イベント名(内容)			開催日時	参加者数	
(施設所管課による評価)						

【収入・支出の状況】

(金額単位:円)※ 消費税額含む

		項目	令和2年度 決算額	令和3年度 決算額	令和4年度 予算額	令和4年度 決算額	備考
指定管理者	指定管理業務	収入					
		指定管理料	54,604,640	61,966,460	62,090,000	62,203,848	
		事業収入	2,127,550			66,730	
		その他	216,122	2,501,226	3,200,000	2,826,642	
		計	56,948,312	64,467,686	65,290,000	65,097,220	
		支出					
		人件費	52,946,425	43,925,160	50,862,000	49,838,762	
	事業費	6,089,611	6,437,717	8,225,000	7,722,305		
	事務費	6,061,651	4,136,424	4,420,000	4,258,078		
	計	65,097,687	54,499,301	63,507,000	61,819,145		
	差引	△ 8,149,375	9,968,385	1,783,000	3,278,075		
	自主事業	収入					
		計	0	0	0	0	
		支出					
計		0	0	0	0		
差引		0	0	0	0		
市	歳入	入所分担金	44,386,260	44,768,268	30,005,000	30,005,187	
		国庫補助金	5,128,270	7,621,399	16,224,000	16,224,865	
		県費負担金	2,554,595	3,645,269	7,814,000	7,814,077	
		利用者負担金	0	75,196	138,000	138,600	
		計	52,069,125	56,110,132	54,181,000	54,182,729	
	歳出	指定管理料	54,604,640	61,966,460	62,138,000	62,137,118	
		計	54,604,640	61,966,460	62,138,000	62,137,118	
		差引	△ 2,535,515	△ 5,856,328	△ 7,957,000	△ 7,954,389	
		総合計	△ 10,684,890	4,112,057	△ 6,174,000	△ 4,676,314	

【施設所管課による評価】(全施設共通評価項目)

評価項目		判断基準	評価
施設管理	施設の運営・清掃の状況	事業計画等に基づき、施設運営に必要な人員と有資格者が配置されているか。責任者や指揮命令系統は明確か。	◎
		条例に基づく「開館(場)時間」や「休館(場)日」が遵守されているか。	○
		事業計画等に基づき、利用者が快適に利用できるよう、施設の清掃や整理整頓が行われているかどうか。	○
	光熱水費・環境への配慮の状況	施設の利用状況等に応じて、適切な使用量となっているか。 (※電気・ガス・水道・燃料の使用がない施設は評価対象外)	○
		省エネ、温室効果ガス削減やごみの減量化・分別を行っているか。	○
	設備・備品の保守・管理状況	消防設備は法令等に基づき点検が行われているか。避難経路に障害物はないか。 (※消防設備が不要な施設は評価対象外)	○
		事業計画等に基づき、施設や設備の点検、必要な修繕が適切に行われているか。	○
		備品に過不足がなく、適切に管理されているか。	○
	事務手続きの状況	第三者への業務委託は適正に行われているか。	○
条例や基本協定書に規定する事業計画書や事業報告書等の書類が遅滞なく提出されているか。また、内容は適切か。		○	
財務状況	収入の状況 (※無料施設は評価対象外)	収支予算に基づき、必要な収入が確保されているか。	/
		収入増に向けて、PR等の取組が行われているか。	
		料金の徴収や減免等の手続きが適切に行われているか。	
	支出の状況	収支予算に基づき、予算の範囲で適切な支出が行われているか。施設運営に不要な経費の支出がないか。	◎
	経理事務・帳票類の保管等	経理帳簿や伝票等の保管、現金の取扱は適切に行われているか。	○
管理費用の執行状況は適正か。		○	
安全対策・危機管理	個人情報の保護・施設管理上の秘密の保持等	利用者名簿等の個人情報が適切に管理されるとともに、職員研修の実施等、漏洩防止の対策が講じられているか。	○
		施設や金庫等の鍵・暗証番号等、施設管理上の秘密の管理者や管理方法が明確であり、適切に管理されているか。	○
	利用者の安全対策・緊急時の対応	緊急・災害時の対応マニュアルや連絡体制が整備されるとともに、避難訓練等、必要な取り組みが行われているか。	○
		危険箇所の把握や対応マニュアルの策定等、事故防止や安全確保のために必要な対策が講じられているか。 管理業務仕様書と基本協定書で指定する施設賠償責任保険に加入しているか。 (※加入不要な施設は評価対象外)	○
利用者サービス	利用者サービス向上の取組	アンケート調査や意見箱等により、利用者からの意見や苦情等を把握し、施設運営に反映する仕組みが整っているか。	○
		対応する職員によって提供するサービスに差が生じないよう、職員に対する研修等、適切な対応が行われているか。	○
	施設利用者への対応	利用者が気持ちよく利用できるよう、接客マナーや施設利用に係るサービスは適切であるか。	○
		特定の利用者を優遇したり、利用を制限していないか。	○
従業員の労働条件	労働条件の明示、帳簿類の整備等	労働契約書(労働条件通知書)が適正に整備されているか。	○
		法定三帳簿(労働者名簿、出勤簿、賃金台帳)が適正に整備されているか。	○
		就業規則が適正に整備されているか。	○
		36協定が適正に締結されているか。	○
	労働条件の内容	労働時間の管理は適正か。	○
		賃金の管理は適正か。	○
		年次有給休暇の運用・管理は適正か。	○
	各種保険・安全衛生	社会保険・労働保険に加入しているか。	○
安全衛生の管理体制は適正か。		○	
個別事項		◎	
		◎	

(施設所管課の評価)※「△」や「×」の評価がある場合は、改善対応を記載

【指定管理者による自己評価】(セルフモニタリング)

(1)令和3年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の取り組みに対する評価

①利用者増加・利用者サービス向上への取り組み

- ①令和4年度は暫定19世帯でスタートをした。入所打診について「断らない」方針のもと、年間での入退所は入所6世帯退所7世帯であった。各月初日の在籍延べ世帯は202世帯であり、暫定回避205世帯にわずかに足りないという状況となり、結果として令和5年度も暫定19世帯でのスタートになった。
- ②上田市内からの入所要請を優先しているが、県内外からの入所打診についても福祉事務所と情報共有を重ね要望があれば積極的に受け入れを行っている。
- ③昨今の入所受け入れ世帯の傾向として、特別な配慮が必要な母子(障害や精神疾患、外国籍等)や就労継続が困難な母親への支援、子育て支援等のニーズは複雑で多様化している。ニーズにこたえるべく、職員の質の向上が求められる。
その為にも職員研修が必要であり、継続的に研修を受ける事ができた。
- ④施設の高・多機能化取り組みとして上田市母子寮は平成26年度から現在までの間に12ケースの特定妊婦を受け入れ「産前産後妊婦支援」を提供している。安心・安全な環境の中で先を見通せる出産と育児が可能になるよう取り組んでいる。

②経費節減に対する取り組み

- ①新型コロナウイルス感染症対応のために、検査キットや消毒液などの物品購入負担額が増えた。
- ②各居室に設置してあるエアコンの故障が続き、想定外の出費となった。

③その他

- ①心理療法については年間605件実施した。コロナ下において活動が制限される中、職員からのケースについて助言を求められることが多くあり、できるだけ情報提供やコンサルテーションを行った。
- ②年間を通して職員研修を充実させ、研修後の報告を通して共有化し支援に活かす取り組みを行っている。
- ③アフターケアについては、自立支援担当職員を配置し、退所後の支援計画を作成すると共に必要に応じて退所後の訪問や相談等のフォローを行い、切れ目のない支援を提供している。

(2)指定管理業務実施上の課題

- ①母子生活支援施設の支援員は高い専門性を有することが求められるため、職員確保に難しさがある。人材を確保することや現職員の職員処遇を充実させ、モチベーションを高めていく事が課題としてあげられる。
- ②建物・設備の老朽化にともなう修繕費の増加及び、居室内に浴室がないことにより利用者からの苦情が上がっている。環境設備の面においても改善が必要である。

(3)次年度以降の取り組み

- ①母子関係の危うさから、母親のレスパイトが必要と判断されるケースが増えている。寮内にてレスパイト支援、トワイライトステイが提供できるように職員体制及び受け入れ環境を整える。
- ②圏域で暮らす母子家庭・ひとり親家庭支援のため、電話相談・地域交流・施設設備の開放を継続して進める。
- ③特定妊婦の一時保護を含め妊娠中の単身女性入所受け入れが可能であることを医療機関や相談窓口へ周知し連携をとる。

(4)その他

①利用者からの主な意見、苦情及び対応等

利用者間トラブルが20件と最も多く、内容としては①浴室の使い方及び掃除について②隣室がうるさい

②市からの改善指示に対する対応(※市から改善指示等があった場合のみ)